

価値観を明確にするツール「オタワ意思決定ガイド」を使って,SDMを体験してみよう!

○青木 裕見¹⁾、福島 鏡²⁾

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科、2) 前聖路加国際大学大学院看護学研究科

本人と話し合いながら治療やケアの方針を決定する共同意思決定 (shared decision making, SDM) が注目されている。わが国の各種精神疾患の治療ガイドラインにおいても、治療やケアの方針は双方向的なやりとりを通じて、本人の希望や価値観を反映させ、合意形成を図ることが望ましいとされ、SDMが推奨されている。また、看護師国家試験の出題基準にもSDMが盛り込まれ、基礎教育においても本人主体のアプローチが一層強調されるようになってきている。ただ一方で、臨床現場への普及は十分には進んでいない。

SDMにおける意思決定支援の理論的枠組みに『オタワ意思決定支援フレームワーク (The Ottawa Decision Support Framework, ODSF)』がある。これは、本人が意思決定に必要な情報 (対象となる疾患の概要や治療・ケアの選択肢、各選択肢の長所・短所、選択後の見通しなど) を十分に得て、自身の希望や価値観を明確にすることで、納得のいく意思決定に至るという理論に基づく。この理論をもとに開発された意思決定の支援ツール『オタワ意思決定ガイド』(O'Connorら 2015; 日本語版 有森ら 2017) は、決定事項やそのための選択肢、各選択肢の長所・短所、それに対する自身の重要度が空欄になっているシートで、対話をしながら埋めていくことで、関連情報に対する自身の価値観が可視化され、考えを整理しながら意思決定のプロセスを進めるよう設計されている。このガイドを活用した意思決定支援を担う『ディジションコーチング』は、どの選

択肢にも中立的な立場をとり、本人が主体的に自身の価値観を探索し、検討できるよう、非指示的にSDMのプロセスを伴走する。この非指示的な介入には、本人の意思決定への積極的な参加、知識やリスク認識の向上、価値観の明確化、医療者との対話の促進といった効果があることが示されている。

本ワークショップの企画者は、日本語版『オタワ意思決定ガイド』の翻訳者の一人であり、オリジナル版開発者によるSDMトレーニングを受講し、学部基礎教育等でこのガイドを活用した演習を導入している。ガイドの体験者からは、「相談者の希望を把握しやすい」「不安に思っていることも知ることができた」「相手を誘導しがちであることに気づいた」といった評価を得ている。

本ワークショップでは、模擬事例を用いて『オタワ意思決定ガイド』を活用したSDMを、相談者役とディジションコーチ役によるロールプレイを通じて体験することを目的とする。さらに、参加者との意見交換を通じて、臨床現場でのSDM普及に向けた方策を検討する場としたい。前半30分を概要説明、後半50分をロールプレイ、最後の10分をまとめの時間とする予定である。SDMや意思決定支援にまだ馴染みがない方にも、ぜひご参加いただきたい。

倫理的配慮：参加者には本ワークショップの目的と進行内容を事前に十分に説明し、心理的負担を避けるために適切なファシリテーションを行い、安心して意見を出し合える環境づくりに配慮する。